

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	地理歴史:地理総合	単位数 2 単位	履修年次1年次(R3入学生) 履修年次2年次(R4入学生)
目標	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解し、地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付ける。また、我が国の国土に対する愛情や、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。		
使用教材	教科書「帝国書院 高等学校 新地理総合」 教科書「標準高等地図」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。また、地図や地理情報システムなどを用いて、さまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、位置や分布、場所、人間と自然環境との関係性、空間的作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想し効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	知識・技能を獲得、思考力、判断力、表現力等を身に付けるために粘り強い取り組みを行おうとしている。また、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などが深まっている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、課題などの提出状況、レポートやワークシートの内容、プレゼン発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や地理情報システムで捉える現代世界について、地球上の位置と時差や地図の役割と種類について学ぶ。</li> <li>・結び付きを深める現代社会について、現代世界の国家と領域、グローバル化する世界について学ぶとともに、これらの内容に着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察したり表現したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。</li> <li>・地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。</li> <li>・現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活文化の多様性と国際理解について、世界の地形・気候・言語や宗教・歴史的背景・産業と人々の生活について学習を進めるとともに、場所や人間と自然環境との相互依存関係に着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察したり表現したりする。</li> <li>・各地で見られる様々な地球的課題について学習を進めるとともに、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察したり、表現したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容すること、さらには自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。</li> <li>・世界各地で見られる地球的課題における傾向性や課題相互の関連性について理解するとともに、その解決には持続可能な社会の実現を目指した取組や協力が必要であることを理解する。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境と防災について、日本の自然環境を踏まえ、地震や津波・火山災害・気象災害と防災、自然災害への備えなどについて学習するとともに、これらの内容について、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>・生活圏の調査と地域の展望について学び、これらの内容について、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりや、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。</li> <li>・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わりや、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりについて理解する。</li> <li>・生活圏を調査して地理的な課題を解決できるよう、必要な手法などを身に付ける。</li> </ul>	
学習上の留意点	地理総合は、自身の住んでいる地域と世界の違い、関係性等を考えながら学ぶものである。ICTの利用も積極的に行い、行ったことのない国のことも学ぶ科目である。授業前には、必ず教科書を一読すること。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	地理歴史:日本史A(必履修)		単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目し考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
使用教材	教科書「清水書院 高等学校 日本史A 新訂版」			
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現)	(資料活用の技能)	(知識・理解)
	近現代史を中心とする日本の歴史に関心を持ち、意欲的に追究している。またそこから国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を持ち、積極的に歴史的な視点から取り組もうとしている。	近現代史を中心とする日本の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連づけて考察している。	授業内で示される資料をうまく活用し、必要な情報を身につけ、適切に表現している。	近現代史を中心とする日本の歴史の展開について基本的な事柄を世界史的視野に立ち、日本を取り巻く環境などと関連づけて理解し、その知識を身につけている。
評価方法	関心・意欲・態度の観点については、提出物などがきちんと出されているか、授業に積極的に参加しているかを踏まえ評価する。また、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の観点については、提出物の内容やペーパーテストを通じて評価する。以上の評価によって総合的に判断する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	近代史を学ぶ前に 序編 私たちの時代と歴史 第1編 近代の日本と世界 第1章 国際関係の変化と幕藩体制の動揺 第2章 明治維新と近代国家の形成		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の時に習った歴史と2年次に習った世界史を意識しながら、近代以前の学習を踏まえ、明治以降の歴史と関連づけて考察する。</li> <li>・開国以後、明治維新を経て近代日本が形成された過程を、国際情勢と関連づけて理解する。</li> <li>・近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出に着目して、幕藩体制動揺期の内外の情勢について理解する。</li> <li>・文明開化などにみられる欧米文化の導入と明治政府による諸制度の改革に伴う社会・文化の変化に着目して、開国、明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでの日本の近代国家の形成について理解する。</li> </ul>	
2	第1編 近代の日本と世界 第3章 立憲政体の成立と国際的地位の向上 第2編 大戦期の世界と日本 第1章 第一次世界大戦と日本 第2章 第二次世界大戦と日本		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦前後から第二次世界大戦終結までの日本について、国際情勢と関連づけて考察する。</li> <li>・政党の役割と社会的な基盤、学問・文化の進展と教育の普及に着目して、政党政治の推移と大衆文化の形成について考察する。</li> <li>・都市や村落の生活の変化と社会問題の発生に着目して、近代産業の発展とそれが国民生活にもたらした影響について考察する。</li> <li>・諸国家の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察する。</li> <li>・産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化について、歴史的な事象と関連付けながら考察する。</li> </ul>	
3	第3編 現代の世界と日本 第1章 戦後政治の動向と国際社会 第2章 経済の発展と国民生活の変化 第3章 現代の日本と世界		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2学期で学習したことを手がかりに、今自分たちを取り巻く社会環境、国際情勢を考察する。</li> <li>・生活意識や価値観の変化に着目して、戦後の経済復興、技術革新と高度成長、経済の国際化など日本経済の発展と国民生活の向上について考察する。</li> <li>・経済や文化の国際的交流、科学技術の発達と世界の平和、日本の国際貢献の拡大などに着目して、現代世界の動向と日本の課題・役割について考察する。現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、その解決に向けて考察する。</li> </ul>	
学習上の留意点	歴史の学習は単に暗記することが目的ではない。興味関心を持つことで歴史は学び甲斐のある科目となるはずである。授業等で示された資料などには図書館などを利用し積極的にふれる。また、授業の前には必ず教科書を一読する。			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	地理歴史: 日本史B(選択)		単位数 4 単位	履修年次 2 年次
目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚を養う。			
使用教材	教科書「山川出版社 詳説日本史 改訂版」			
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現)	(資料活用の技能)	(知識・理解)
	日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たす力を身につけようとしている。	日本の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し日本の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察する過程や結果を資料を効果的に活用し表現している。	日本の歴史の展開について基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身につけている。
評価方法	関心・意欲・態度の観点については、提出物などがきちんと出されているか、授業に積極的に参加しているかを踏まえ評価する。また、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の観点については、提出物の内容やペーパーテストを通じて評価する。以上の評価によって総合的に判断する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	第1章 古代国家の形成と貴族文化の誕生 1 原始社会の生活と文化 2 農耕社会の形成と大陸文化の摂取 3 律令国家の形成と古代文化の展開 4 摂関政治と文化の和様化 第2章 武家社会の形成と生活文化のめばえ 1 中世社会の成立 2 武家社会の形成と東アジア		・原始社会の人びとの生活の変化、大和朝廷による統一、律令に基づく古代国家の成立と推移および文化の形成について、東アジア世界の動きとともに関連づけて理解する。 ・武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開について、東アジア世界の動向と関連づけて理解する。	
2	第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 1 ヨーロッパ文化の接触と国内統一 2 幕藩体制の成立 3 近世社会の発展と町人文化 4 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達 第4章 近代国家の形成と国民文化の発展 1 開国から明治維新へ 2 立憲政治の成立と国民文化 3 日本の近代化と東アジア 4 デモクラシーと第一次世界大戦 5 激動する世界と日本		・織豊政権および幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、国際関係の変化とその影響にもふれながら理解する。 ・開国、幕府の滅亡と新政府の成立からの明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連づけて考察する。 ・第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る日本の歴史について、世界情勢と国内の動きを関連づけて考察する。	
3	第5章 現代の世界と日本 1 占領と国内改革 2 国際社会への復帰と高度経済成長 3 石油ショックと低成長の時代 4 新しい国際秩序と日本の課題		・第二次世界大戦の終結から今日に至る日本の歴史について、世界の動向と関連づけて考察するとともに、広い視野から日本の文化や課題について理解する。 ・1年間の学習を振り返り、国際社会の中に生きる日本人としてこれからできることは何かなどを考えていく。	
学習上の留意点	歴史の学習は単に暗記することが目的ではない。興味関心を持つことで歴史は学び甲斐のある科目となるはずである。図書館などを利用し、授業等で示された資料等に積極的にふれる。また、授業の前には必ず教科書を一読する。なお、進学希望者で大学入学共通テスト等を考える者については、この科目を選択することが望ましい。			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	地理歴史:地理A(選択)		単位数 2 単位	履修年次 2・3 年次
目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
使用教材	教科書「東京書籍 地理A」 教科書「帝国書院 標準高等地図 -地図でよむ現代社会-」			
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現)	(資料活用の技能)	(知識・理解)
	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性をふまえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化をふまえて公正に判断し、適切に表現する力を身につけている。	地図や統計など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身につけている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。
評価方法	関心・意欲・態度の観点については、提出物などがきちんと出されているか、授業に積極的に参加しているかを踏まえ評価する。また、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の観点については、提出物の内容やペーパーテストを通じて評価する。以上の評価によって総合的に判断する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	第1編 現代世界の特徴と動向 第1章 地球儀や地図からとらえる世界 第2章 結びつく現代社会 第2編 世界の生活・文化の多様性 第1章 世界的視野から見た自然環境と文化 第2章 諸地域の生活・文化と環境 1 東アジアの生活・文化と環境 2 東南アジアの生活・文化と環境 3 南アジアの生活・文化と環境 4 西アジア・北アフリカの生活・文化と環境		・地球儀や世界地図との比較、様々な世界地図の読図などを通して、地理的スキルを身につけるとともに、方位や時差、日本の位置と領域、国家間の結び付きなどについてとらえる。 ・東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、北アフリカの諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けてとらえ、その多様性について理解するとともに、異文化を理解し尊重することの重要性について考察する。	
2	第2編 世界の生活・文化の多様性 第2章 諸地域の生活・文化と環境 5 アフリカ中・南部の生活・文化と環境 6 ヨーロッパの生活・文化と環境 7 ロシアとその周辺諸国の生活・文化と環境 8 北アメリカの生活・文化と環境 9 中部・南アメリカの生活・文化と環境 10 オセアニアの生活・文化と環境		・アフリカ、ヨーロッパ、ロシア、北アメリカ、中部、南アメリカ、オセアニアの諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けてとらえ、その多様性について理解するとともに、異文化を理解し尊重することの重要性について考察する。	
3	第3編 深刻化する地球的課題とその解決策 第1章 地図で読み解く地球的課題 第2章 さまざまな地球的課題 第3章 持続可能な社会の実現をめざして 第4編 身近な地域と地理的課題 第1章 身近な地域と地図 第2章 自然環境と防災 第3章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査		・環境、資源、エネルギー、人口、食料および居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を超えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解し、それらの課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察する。	
学習上の留意点	教科書の内容だけでなく、世界の位置関係などを理解した上で授業に臨む。そのため、普段から地図帳に親しんでおくことが大切である。			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	地理歴史:東紀州学(選択)		単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	東紀州地域、特に本校の所在地である南牟婁郡御浜町周辺の歴史・文化・産業・伝統工芸などの学習を通じて、地元地域への理解を深め、伝統工芸の継承と将来地域に貢献できる人材を育成する。			
使用教材	プリント教材			
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現)	(資料活用の技能)	(知識・理解)
	地元地域の歴史・文化・産業について積極的に学ぼうとしている。	地元地域の歴史・文化・産業について学んだことを活かし、地域の現状を考え、問題点を見いだす力を身につけ、適切に表現し、発表している。	地元地域の歴史・文化・産業について諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用している。	地元地域の歴史・文化・産業についての知識、理解を深め、得た知識を適切に表現し、活用している。
評価方法	関心・意欲・態度の観点については、提出物などがきちんと出されているか、授業に積極的に参加しているかを踏まえ評価する。また、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の観点については、提出物の内容やレポートを通じて評価する。以上の評価によって総合的に判断する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	東紀州の歴史・文化・産業・伝統工芸・文化財 フィールドワーク		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の歴史を学習することにより、地域の成り立ち、地名の由来、抱えてきた問題や将来の課題などを理解する。</li> <li>・地場産業の現状、その課題を学習し、産業の発展に貢献する方法を考察する。</li> <li>・地域に残る文化財や独特の風習(祭りなど)について学習し、その保護や継承方法について考える。</li> <li>・上記のことをふまえ、必要に応じて、フィールドワークを行い実際に見聞することによりさらに理解を深める。</li> </ul>	
2	課題設定 調査(フィールドワーク・インタビュー・アンケート) まとめ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班毎にテーマを設定し、調査計画を立て、課題をみつける。</li> <li>・課題解決のために、必要に応じて、フィールドワークやインタビュー、アンケートなどの調査を行う。</li> </ul>	
3	1年間のまとめと東紀州地域のこれから		学んだことをまとめ、発表するとともに、学校のホームページなどを通じて発信する。	
学習上の留意点	グループでの活動を基本として学習を行う。地元のことについて理解を深めるために、地域の方に聞き取りをする機会がある。なお、各学期の大きなテーマについては、若干扱う順番が変わることがある。年度によっても若干の変更がある。授業時間外に活動を行う場合もあるので、了承した上で履修すること。			